

# 授業づくりと評価の手引き 【改訂版】

～「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして～



平成 28 年 1 1 月

山口県教育庁義務教育課

学校 氏名

## はじめに

### ～まだ見ぬ未来を拓くために～

「想定にとらわれることなく対処する。ミスを恐れることなく、最善を尽くす。そして、指示を待たずに、率先して引率者になる。」この言葉は、防災教育の取組を通して生み出された言葉ですが、災害発生時に限らず、現代あるいは将来の社会のあらゆる場面で生きて働く教訓です。

また、文部科学大臣補佐官で慶應義塾大学教授でもある鈴木寛氏は、「これからの社会では、人工知能には解答できない問題と向き合える人材、『創造的で、協働して進める、唯一無二のコト・モノづくりができる人材』を育てることが求められている」と話しています。

未来を予測することは、難しいことです。しかし、私たちは、まだ見ぬ未来を、拓いていかなければなりません。むしろ、未来を拓いていくために、誰かの指示を待つのではなく、自分で最善策を選択し、積極的に実行していくことができるようになりたいと願います。私たちは、自分自身の在り方を見つめ直すとともに、未来の社会を支える子どもたちに本当に必要な資質・能力を育む学校をめざし、その基盤となる授業改善を進めていきたいと思います。

平成 28 年 1 1 月  
山口県教育庁義務教育課

# 目 次

ページ

はじめに	
1 現在と未来に向けて自らの人生を切り拓く子どもたちを求めて	1
2 めざす授業の姿	3
3 授業づくりにおけるPDCAサイクル	4
(1) P: 授業を構想する	5
児童生徒について	
目標について	
教材・題材について	
指導の工夫について	
(2) D: 授業を実践する	13
児童生徒の見取り	
教員の働きかけ	
(3) C: 授業を評価する	15
児童生徒による授業評価	
教職員同士による授業評価	
保護者や地域住民の方々による授業評価	
(4) A: 授業を改善する	18
4 授業改善を進めるための研修体制	20
校内研修	
校種間連携による研修	
キャリアステージを意識した研修	

# 1 現在と未来に向けて自らの人生を切り拓く子どもたちを求めて ～よりよい学校教育を通じて、よりよい社会づくりをめざす～

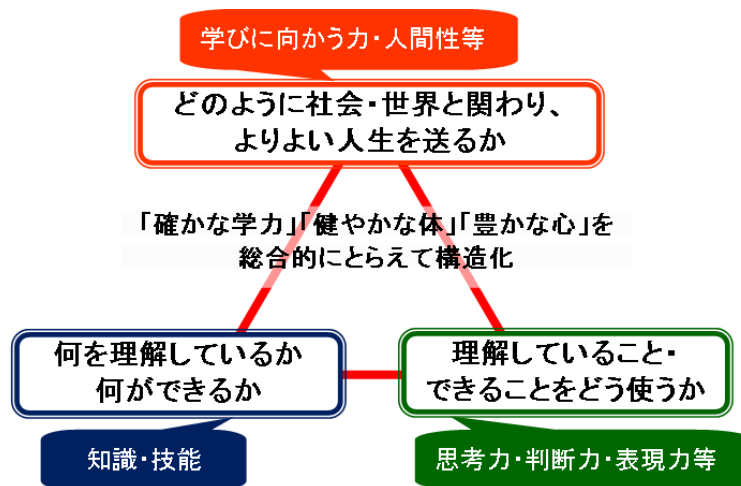
育成すべき資質・能力を明確にし、確実に育むことが求められます



変化が激しく将来の予測が困難な時代にあっても、一人ひとりが自信をもって自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるよう、これからの教育界には、図のような**資質・能力**を児童生徒に育成していくことが求められます。

各学校においては、児童生徒の発達の段階に応じた幼保・小・中・高の縦のつながりと、教科等間の横のつながりの両方を意識した、教育課程の編成や授業改善の取組、学習評価を行うことが求められます。

## 【育成すべき資質・能力の三つの柱】



社会総がかりで子どもたちを見守り、育んでいく気運が大切です



これからの社会では、次のようなことが求められます。

- ① 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりをめざす」という目標を社会と共有すること
- ② 児童生徒にどのような資質・能力を育成するのかを教育課程において明確にすること
- ③ 社会と連携・協働しながら実現させていこうとする「社会に開かれた教育課程」の理念を重視すること



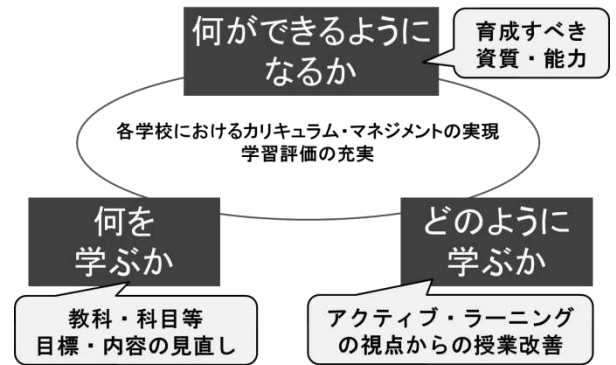
各学校の特色を踏まえた教育課程を、みんなで構築しましょう



児童生徒に求められる資質・能力を育んでいくためには、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という、図の三つの要素について各学校が組み立て、家庭・地域と連携・協働しながら実施し、目の前の児童生徒の実態を踏まえながら不断の見直しを図ることが求められます。（カリキュラム・マネジメント）

特に、「どのように学ぶか」を追究することが、授業改善の取組の活性化をもたらします。次期学習指導要領には、授業改善の視点として「**主体的・対話的で深い学び**」を実現する**アクティブ・ラーニング**の視点が、明確に位置付けられます。

【教育課程編成において注目すべき要素】



「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点から、授業を見直しましょう



現実の社会で起こっている問題の多くは、短時間で容易に解決できるものではありません。問題を自分のこととして受け止め、解決までの困難な道のりを、あきらめることなく、歩み続ける「**主体的な学び**」の姿が求められます。

また、現実の社会で起こっている問題の多くは、自分一人で解決できるものではありません。周囲の人々とコミュニケーションを図りながら、よりよい解決策を見つけ、協働して実行していこうとする「**対話的な学び**」の姿が求められます。

そして、直面する問題に多方面から迫り、試行錯誤を繰り返しながら、問題の本質的な解決を導く可能性がある対策を選択・判断する「**深い学び**」の姿が求められます。

【「主体的・対話的で深い学び」のイメージ（文科省作成資料による）】

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか

学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

【対話的な学び】

子ども同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか

【深い学び】

各教科等で習得した概念や考え方を活用した「**見方・考え方**」を働かせ、問いを見いだし解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか

「主体的・対話的で深い学びの実現」をめざす取組、すなわちアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善では、本時の学習課題を解決する資質・能力はもちろん、将来の問題解決につながる資質・能力を育成することも意識していく必要があります。

## 2 めざす授業の姿 ～みんなで授業改善を進める雰囲気づくりの基盤になります～

めざす授業の基本的な姿を共有することによって、授業改善が進みます



多くの学校で、一人ひとりの教員の思いや考え方の違いから、それぞれが個別に授業改善を行っているという状況が見られます。授業改善の取組をより効果的なものにするために、まず、めざす授業の姿を共有するなど、組織的に進めましょう。

### 【めざす授業の姿の例】

- 「こんな子どもを育てたい」という教員の強い願いがこもった授業
- 明確な目標のもとに組み立てられている授業
- 教員の表情が豊かな授業
- 活動の切り替えがきびきびしている授業
- 児童生徒の中で、思考が深まっている授業
- 必要に応じて、さまざまな学習形態を工夫して取り入れている授業
- 様々な評価方法を取り入れ、多面的に児童生徒を評価している授業
- めあてが達成された授業



など

県教委では、基本となる授業の形を、次のように整理しています。

### 【基本となる授業の形】

はじめ

「目標がはっきりした授業」

児童生徒に学習の見通しを立てさせ、その授業でめざすものを児童生徒にも明確に意識させましょう。

中

「メリハリのある生き生きとした授業」

設定した目標（ねらい、めあて）がぶれることのないようにしながら、適切な学習活動を取り入れましょう。

終わり

「評価に工夫が見られる授業」

授業の終わりに、児童生徒の理解度をはかるとともに、児童生徒自身に学習の振り返りをさせましょう。

全員で共有する部分と、個人でアレンジする部分を見極めながら、普段から互いの授業を気軽に参観したり、日々の授業について職員室で話をしたりすることができる雰囲気づくりを進めて、**児童生徒一人ひとりの学力向上に責任をもって向き合う教員集団**をめざしましょう。

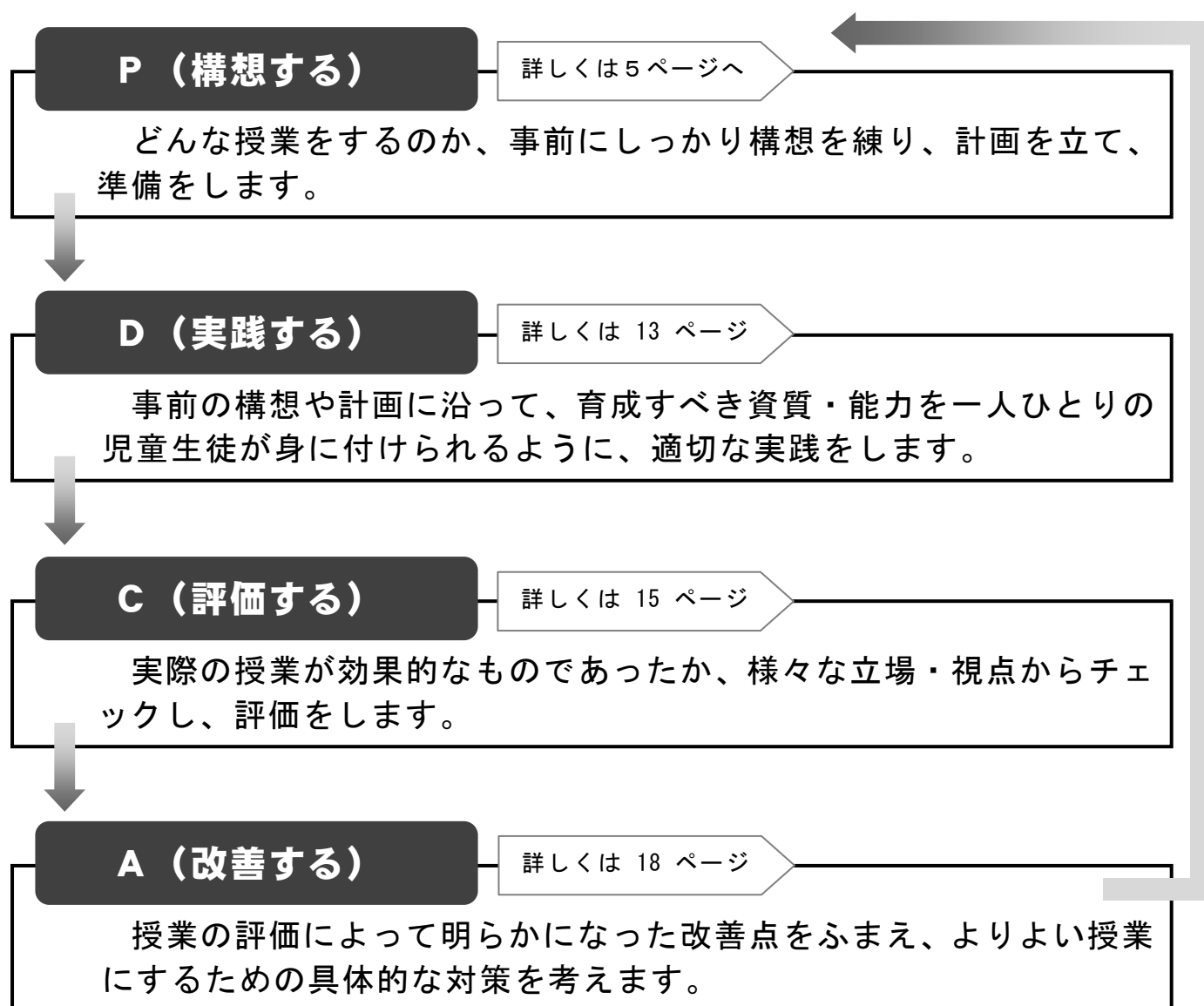
### 3 授業づくりにおけるPDCAサイクル ～よりよい授業を求め続ける教員の姿勢が大切です～

日々の授業改善こそ、児童生徒の学力向上につながります



全ての児童生徒が、1時間1時間の授業を通して、求められる資質・能力を確実に身に付けることができるようにすることが大切です。

授業の主人公は児童生徒ですが、**授業づくりの主人公は教員**です。下のような「**構想(P)**」「**実践(D)**」「**評価(C)**」「**改善(A)**」の営みを繰り返していくことで、全ての児童生徒が求められる資質・能力を確実に身に付けることができるようにする、よりよい授業の実現に向けた取組を充実したものにすることができます。



## (1) 授業を構想する

### P (構想する)

どんな授業をするのか、事前にしっかり構想を練り、計画を立て、準備をします。

授業の前に、まず教員は、授業に対する自分の思いや考えを整理しておきましょう。その際、次の四つの項目に沿って整理しておくといでしょう。

#### 【授業に対する思いを整理する際の四つの項目】

児童生徒について

「目の前の児童生徒は、このような状態にあります。」

目標について

「本単元・授業で、このような姿になってほしいので。」

教材・題材について

「このような価値のある教材・題材を使って。」

指導の工夫について

「このような指導の工夫をします。」

これらの項目に沿って整理した自分の思いや考えをつなげて、授業について語るができるようになります。



### 児童生徒について

**ここがポイント!!**

その授業を行う上で必要と思われる児童生徒の情報の収集・把握を心がけましょう。

授業の主人公である児童生徒の今の姿を把握することは、授業の目標を設定したり、指導の工夫を考えたりする際の手掛かりとなり、よりよい授業づくりにつながります。

教員は、児童生徒の様子をできるだけ的確に把握することができるように、多様な方法で情報の収集に努めましょう。

どんな情報を  
収集すればよいか?

- ・それまでにどのような内容について学習したか
- ・どのような学習内容や活動に興味・関心を示すか
- ・どのような見方や考え方をする傾向があるか
- ・どのようなつまずきをもった児童生徒がいるか など

- ・事前のアンケート調査によって
- ・直接児童生徒を観察することによって
- ・それまでの学習の記録によって など

どうやって  
情報を収集すればよいか?





## 目標について

ここがポイント!!

目標は、期待される児童生徒の具体的な姿で設定するように心がけましょう。

目の前の児童生徒に、その授業を通して、どのような資質・能力を育みたいのかを明確にすることによって、進むべき学びの方向を定めることができ、より分かりやすい授業づくりにつながります。

教員は、学習指導要領の教科等の目標を踏まえながら、単元の目標を設定し、その中の授業の目標を設定していきます。しかし、そこで設定した目標が、児童生徒からあまり離れすぎたものであったり、抽象的なままであったりしてはいけません。教員は、育成すべき資質・能力と児童生徒の現状の間、つまり「少し背伸びして頑張れば、到達することができる」という地点を見極め、児童生徒の具体的な姿をイメージしながら目標を設定することが求められます。

TRY

発達の段階や学習内容、教科等の特性に応じた具体的な目標（めあて、ねらい）の在り方について、研修を行って意見交換をしてみましょう。



## 教材・題材について

ここがポイント!!

授業者が、自分の言葉で教材の価値を語るできるように、綿密な教材分析・解釈を心がけましょう。

教員が、授業で扱う教材・題材について、事前の分析と解釈を行うことで、その教材・題材の魅力を生かした働きかけを考えるきっかけができ、よりよい授業づくりにつながります。ただし、実際の授業では、目標の達成に必要な内容を中心に扱うようにしましょう。

教材の分析・解釈に時間がかかる場合には、他の先生方に声をかけ、協働で行うなどの工夫も考えられます。具体的な教材・題材を一緒に読み解きながら、互いの意見を交流させる活動は、多くの教員が取り組みやすいものであり、校内における研修を深めるきっかけになります。

TRY

様々な校種の教員が集まる研修会を開き、一緒に教材・題材の分析・解釈に取り組んでみて、共通点や相違点を見つけてみるのもよいでしょう。



## 指導の工夫について

ここがポイント!!

目的や意図を明確にして、効果があると思われる働きかけを行うように心がけましょう。

授業で教員が児童生徒にどのような働きかけをするのか、具体的な手立てや方法を準備しておくことによって、児童生徒の発言や学習の様子などから、次の働きかけを考える余裕が生まれます。授業の中で教員が行う働きかけには、様々なものがあります。

イ：発問、説明、指示

ク：資料提示

キ：授業プリント（ワークシート）

ウ：学習形態に関する働きかけ

ア：学習課題に関する働きかけ

カ：ノート指導

エ：学習活動に関する働きかけ



オ：板書

ケ：振り返り

その他

教員は、最も効果があると思われる働きかけを選び、実施します。その際、単元や授業の目標を達成できるかという視点から吟味することが大切です。さらに今後は、「主体的・対話的で深い学び」の実現という視点から吟味することも求められます。

### ア：学習課題に関する働きかけ

学習課題は、「なぜ、どうすれば、どのように」等の「問い」の解決や、「できるようにになりたい、わかりたい」等の「願い」の実現のために、解決しなければならないものです。

#### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：学習課題と児童生徒が出合う場を演出する

**対話的な学びの視点から**：自分ひとりでは解決が難しい学習課題を設定する

**深い学びの視点から**：学習課題を解決するまでの過程の大切さを確認する

#### ◆授業における「学習課題」チェックポイント

- 「問い」の解決や「願い」の実現のための学習課題ですか。
- 児童生徒に分かりやすく、見通しのもてる学習課題ですか。
- 学級全体で学習課題を共有していますか。

#### ◆その他の留意事項

- 1時間の授業時間の各活動のバランスを考え、「導入」の適切なタイミングで、学習課題を示しましょう。
- 前時の掲示物等を活用しながら、今までの学習過程を想起させるなど、児童生徒が意欲を持続して取り組めるようにしましょう。



## イ：発問、説明、指示

発問、説明、指示は別のものであり、目的によって、使い分ける必要があります。

「発問」の目的：児童生徒の学習意欲を引き出し、学習を深め思考力を育てる など

「説明」の目的：教材の内容を児童生徒に理解しやすくする など

「指示」の目的：学習課題を踏まえて取り組む活動内容を伝える など

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：学習課題を自分のこととして受け入れるよう支援する

**対話的な学びの視点から**：意見を交流する際のポイントを明確に示す

**深い学びの視点から**：より説得力のある意見になるよう支援する

### ◆授業における「発問」チェックポイント

発問の目的は明確になっていますか。

- ・興味・関心を高めるため
- ・授業の目標や課題を意識させるため
- ・対立・葛藤を生み出すため
- ・思考の過程を振り返るため
- など

### ◆授業における「説明」チェックポイント

十分な教材分析・解釈に基づく効果的な説明になっていますか。

要点を説明した後に、具体的な内容を説明するようにしていますか。

### ◆授業における「指示」チェックポイント

児童生徒が集中して聞ける状況で指示を出していますか。

一度に欲張りすぎず、簡潔な内容の指示を出していますか。

### ◆その他の留意事項



○ 「質問」は「～は何ですか？」など、知っているかどうかを問うものです。「発問」は「～なのはなぜですか？」など、考える機会を与えるものです。一問一答の「質問」だけに偏った授業にならないようにしましょう。

○ 授業の各段階で、発問・説明・指示を効果的に組み合わせましょう。

#### 導入

興味深い内容で、授業のねらいに意識が向き、見通しをもてる発問・説明・指示に努める。

#### 展開

思考・判断・表現する活動を通して「わかった」「できた」と思える発問・説明・指示に努める。

#### まとめ

児童生徒が学習過程を振り返り、学習内容を整理できる発問・説明・指示に努める。

## ウ：学習形態に関する働きかけ

学習形態には、下記のようなものがあります。それぞれのメリットがあり、そのメリットを生かして、教科や科目、学習内容、授業の場面等に応じ、効果的に設定していくことが大切になります。

「一斉学習」：集団全体の意見や反応が確認できる

「グループ学習」：多様な考えについて、複数の立場から検証できる

「ペア学習」：パートナーと互いの考えを交流させたり、学習状況を確認したりできる

「個別学習」：一人ひとりの状況に応じて学習を進めることができる など

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：児童生徒が自分の考えを確認する場を適宜設定する

**対話的な学びの視点から**：対話が生まれる学習形態を意図的に設定する

**深い学びの視点から**：それぞれの学習形態で生まれた成果を価値付ける

### ◆授業における「一斉学習」チェックポイント

- 全ての児童生徒が「参加した」実感をもつことができる学習になっていますか。
- 一人ひとりが思考・判断・表現する時間を確保していますか。

### ◆授業における「グループ学習」チェックポイント

- 異なる意見や価値観が表出されるテーマが準備されていますか。
- グループ内での役割分担や、活動の手順は明確になっていますか。

### ◆授業における「ペア学習」チェックポイント

- 互いに自分の考えをもち相手に伝えたいテーマが準備されていますか。
- 活動が停滞しているペアへの対応を準備していますか。

### ◆授業における「個人学習」チェックポイント

- 児童生徒一人ひとりの学習状況に気を配っていますか。
- 児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた個別の支援を準備していますか。

### ◆その他の留意事項

- 児童生徒が、それぞれの学習形態における約束事をきちんと理解した上で活動に取り組むことが必要です。普段から、様々な学習形態を取り入れ、経験を重ねていくことができるようにしましょう。



## エ：学習活動に関する働きかけ

知識・技能の習得や、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の育成のためには、**言語活動**や**体験的な活動**、**問題解決的な学習**などを効果的に位置付けることが有効です。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

- 主体的な学びの視点から**：活動の目的や意義を確認する
- 対話的な学びの視点から**：他者を意識した活動を設定する
- 深い学びの視点から**：それぞれの学習活動で生まれた成果を価値付ける

### ◆授業における「学習活動」チェックポイント

- 目的を踏まえた学習活動を選択し、準備していますか。
- 児童生徒が学ぶ喜びを味わうことができる活動を準備していますか。
- 児童生徒が学習内容や方法を身に付けることができる活動を準備していますか。

### ◆その他の留意事項



- 全ての教科等において様々な学習活動を経験させることにより、児童生徒がそれぞれの活動の特徴をとらえ、回数を重ねることに充実した活動を実現することができます。

## オ：板書

板書は、「授業の顔」であり、授業の様子を反映します。授業の中で、教員と児童生徒、児童生徒同士をつないでいくのも板書の大きな役割です。授業の大まかな流れや、前時、次時とのつながりが見えてくる板書をめざしましょう。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

- 主体的な学びの視点から**：学習の目標や課題、学習の流れを板書する
- 対話的な学びの視点から**：児童生徒の発言を整理して板書する
- 深い学びの視点から**：課題を解決する鍵となった言葉を板書する

### ◆授業における「板書」チェックポイント

- 児童生徒に分かりやすい表現を使っていますか。
- 教員と児童生徒が共に作る板書を意識していますか。

板書に夢中になってしまい、児童生徒の様子を見ないのは本末転倒です。

### ◆その他の留意事項

- 授業1時間で黒板一面分を基本とし、目の前の児童生徒にあった板書計画を毎時間準備することが、授業づくりの柱になります。



## カ：ノート指導

ノートは、児童生徒が授業の様子を振り返り、自分の考えを整理する上で大切です。学習プリントの活用も合わせて、児童生徒がノートを見直すことでいつでも学習内容を思い出すことができるように、指導を工夫していきましょう。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：ノートに自分の考えを整理する習慣をつける

**対話的な学びの視点から**：印象に残った友達の発言などをメモする習慣をつける

**深い学びの視点から**：役立ちそうな見方や考え方などを確認する習慣をつける

### ◆授業における「ノート指導」チェックポイント

- ノートの取り方に関する約束事を学級や学年、学校で共有していますか。
- 児童生徒が、約束事の中で自分なりに工夫することをすすめていますか。

### ◆その他の留意事項



- 優れたノートを取り上げ、良いところを具体的に示しながら学級で紹介することは、児童生徒に明確な目標をもたせることにつながります。

## キ：授業プリント（ワークシート）

授業プリント（ワークシート）は、主となる教材である教科書等の補助的なものです。授業の目標や、児童生徒の実態、学習内容に即したものを作成しましょう。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：自分の考えを書き込むところをつくる

**対話的な学びの視点から**：友達の考えを書き込むところをつくる

**深い学びの視点から**：他の場面でも役立つ内容をチェックできるようにする

### ◆授業における「授業プリント（ワークシート）」チェックポイント

- 必要な情報を過不足なく提供することができていますか。
- 児童生徒が自分の気づきを記入するスペースを作っていますか。

### ◆その他の留意事項

- 図やフローチャート等を使って、児童生徒が内容を理解しやすくするなど、学習が円滑に進む手助けとなるように工夫しましょう。



## ク：資料提示

ICT機器を活用したり教具を工夫したりすることで、実感を伴う体験的な活動を取り入れることができ、児童生徒の興味・関心を喚起し、学習内容のより確かな理解を促すことにつながります。指導のねらいに沿って、適切な場面で活用するように心がけましょう。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：児童生徒の興味・関心を喚起し意欲の向上につなげる

**対話的な学びの視点から**：互いの意見を比較・共有する場を演出する

**深い学びの視点から**：資料から得た情報を基に、確かな理解へ導く支援をする

### ◆授業における「ICT機器や教具の利活用」チェックポイント

- 効果について検討し、明確な意図をもって活用していますか。
- 授業のねらいを達成する手助けとして機器や教具を活用していますか。

### ◆その他の留意事項

- ICT機器や教具による情報の提示は、板書の代わりではありません。重要な点はきちんと板書するなど、働きかけを区別しましょう。



## ケ：振り返り

「振り返り」の活動は、その授業を通じて何が分かったのか・何ができるようになったのかを実感したり整理したりする活動です。分かる・できるようになるまでの過程や、分かる・できるようになるために有効であった方法や手がかりなども確認します。

### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて（例）

**主体的な学びの視点から**：未解決な部分やさらに追究したい内容に注目させる

**対話的な学びの視点から**：有効であった友達や先生の言葉に注目させる

**深い学びの視点から**：有効であった見方や考え方に注目させる

### ◆授業における「振り返り」チェックポイント

- 振り返りの視点を示し、十分な時間を確保していますか。
- 記述したり類似問題を解いたりするなど、多様な方法で行っていますか。

### ◆その他の留意事項

- 「振り返り」と「授業評価」は目的が異なることに十分注意しましょう。類似問題として、やまぐちっ子学習プリントが活用できます。



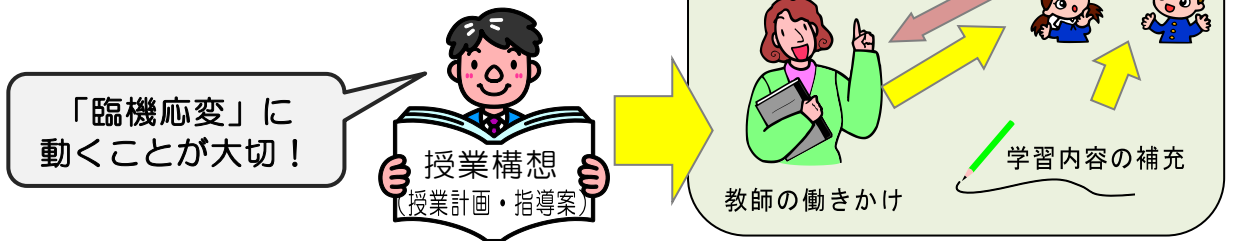
## (2) 授業を実践する

### D (実践する)

事前の構想や計画に沿って、育成すべき資質・能力を一人ひとりの児童生徒が身に付けられるように、適切な実践をします。

授業の事前の構想や計画の中に、児童生徒が発言したり活動したりする場を設定し、これに沿って児童生徒に働きかけていくことは、授業づくりの基本です。

しかし、実際の児童生徒の反応や発言、表情などを見て、臨機応変に事前の構想や計画を修正していくことも必要です。事前の計画を踏まえながら、より効果的な働きかけを心がけましょう。



### 児童生徒の見取り

**ここがポイント!!**

日常の授業等を通して、児童生徒の学習状況や特性などを把握し、些細な反応もキャッチできる「アンテナ」を備えましょう。

授業が、教員の一方的な指導に終始しないようにするためにも、児童生徒の反応や発言を的確に見取り、授業に生かしていくことが大切です。

授業を構想する段階で、学級集団の学習状況や特性などを把握し、入念な準備をしておくことで、広い視野をもった見取りができます。

例えば、ペアやグループ活動における児童生徒のやりとりからも、様々な情報を得ることができます。

学習の展開によって、見取る内容は変わります。

**いつ**

- ・授業全体を通して
- ・学習活動ごとに

**何を**

- ・発問・指示、学習内容を理解できているか。
- ・本時の学習につながる考えや活動ができているか。
- ・自他の考えを広げ、深められているか。
- ・集団全体の学びを活性化するヒントがないか。

### 見取りの要素例

- ・発言の記録
- ・ノート等の確認
- ・表情の観察

**どうやって**

**どこで**

- ・全体の場合
- ・グループやペアの場合
- ・一人学びの場合

本時で何を理解させなければならないのかを教員が明確にし、見る視点を定めておくことが大切です。

**TRY**

授業の動画を校内研修会で共有するなど、見取りの技術を向上させましょう。





## 教員の働きかけ

ここがポイント!!

児童生徒の状況を見取った後、最も効果的な働きかけは何かを判断し、実行しましょう。

児童生徒の反応を踏まえて、効果的に働きかけていくことにより、教員が自分の思いや願いだけで授業を進めることが少なくなり、児童生徒が主体的に学びを深めていくきっかけとなります。授業における教員の働きかけは、大きく二つに分類されます。

- 本時の学習内容の理解を促すための働きかけ
- 生徒指導の面から学習活動の基盤を整えるための働きかけ

### 教員の働きかけで意識したいことの例

#### ☆ 目的をもった働きかけを！

・求められるものは「学習内容の理解を促すための働きかけ」か、「学習活動の基盤を整えるための働きかけ」か、場面や状況に応じて判断し、適切な働きかけをしましょう。

#### ☆ 今の、その子の、その姿に応じた働きかけを！

・目の前で展開されている状況に最も適した、具体的な働きかけをしましょう。

#### ☆ 児童生徒をゆさぶる働きかけに！

・戸惑っている、迷っているなどの思考に対しては、明確に道筋を示す働きかけをします。逆に、分かっているつもりになっていることには、根拠や論理的な説明を求めるなど、思考を整理させる働きかけも必要です。

#### ☆ 状況に応じて、働きかけに変化を！

・単元での位置や学習の過程に応じて、学習集団や個人の理解度・能力に応じて、働きかけに変化をもたせるようにしましょう。

TRY

具体的な授業の場面を設定し、どのような働きかけを意識すればよいか、考えてみましょう。



## 学習評価の在り方

授業を行う際には、「この時間に何を学ばせるのか、何を学ぶことができたらいいか」という、授業の目標と評価の観点を明確にしておく必要があります。さらに、児童生徒が語る言葉の状態にまで、具体的な表現に直しておくことが大切です。

本時でねらいとする知識・技能、それらを活用する力などについては、観点ごとの評価規準に照らしながら、「十分満足」「満足」「やや不十分」「不十分」等、具体的な状況を段階的に設けます。その上で、児童生徒の様子を観察することにより、確かな見取りが可能になります。

授業で見取った児童生徒の状況を分析し次の指導につなげることで「指導と評価の一体化」を図ることができます。



### (3) 授業を評価する

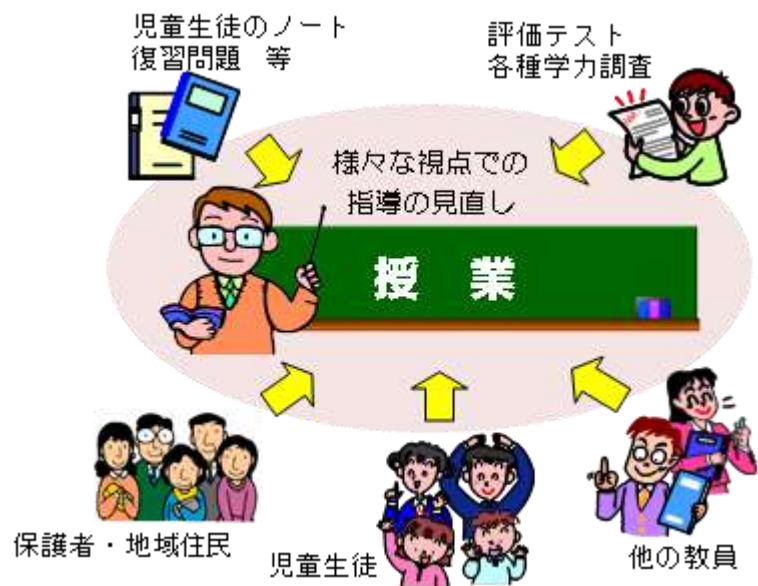
#### C (評価する)

実際の授業が適切で効果的なものであったか、様々な立場・視点からチェックし、評価をします。

構想 (P) し、実践 (D) した授業が適切であったかを評価 (C) する際には、復習問題や評価テスト、各種学力調査などで児童生徒に求められる力が身に付いたかを確認し、教員自身が自分の授業を振り返ることが大切です。

さらに、自分以外の人からの評価も、授業力を高めていくためには効果的です。共通の評価項目を決めておき、様々な立場からの評価を比べてみるにより、学校全体の研修を深める上での手がかりを見つけることもできます。

様々な立場・視点からの指摘を踏まえ、自分の授業の改善点を整理しておきましょう。



#### 児童生徒による授業評価

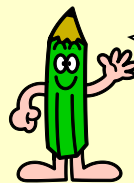
ここがポイント!!

児童生徒の声を毎時間受け止め、次時以降の授業構想を変えていきましょう。

事前に構想し、実践した授業が、児童生徒にとって、「分かる喜び」と「できる楽しさ」を感じることができるものであったか、児童生徒の視点に立って授業を見直しましょう。そのために活用できるのが「児童生徒による授業評価」です。

#### 児童生徒による授業評価の項目例

- ・ 授業のめあてがよく分かった。
- ・ 先生の説明は分かりやすかった。
- ・ 黒板には、授業の内容が分かりやすく書かれていた。
- ・ 声の大きさや話すスピードがちょうどよかった。
- ・ 班で話し合ったり、自分の意見を発言したりする機会があった。
- ・ 学習したことを振り返る活動があった。 など



「児童生徒による授業評価」と「まとめ・振り返り」の目的は違いますが、実際には、同じプリントを使って実施するなど、同時に行うことも可能です。



各学校で大切にしたい教員の働きかけを評価項目にし、計画的・継続的に取り組んでみましょう。また、評価項目等を更新することも大切です。



## 教職員同士による授業評価

ここがポイント!!

いつでも、どこでも、誰でも、誰にでも、積極的に授業公開を行う姿勢をもちましょう。

教職員の視点で、互いの授業を参観し検討しながら、効果的であった指導方法や、授業づくりにおける課題を見いだすことも大切です。

学力向上推進リーダー・推進教員、英語教育推進教員との授業や、指導主事の訪問、校内の研究授業など特定の場だけでなく、日常的にお互いの授業を参観し、授業力を磨き合ひましょう。

### 【教職員同士の授業評価シートの例】

平成（ ）年（ ）月（ ）日（ ）曜日（ ）校時

記入者氏名：（ ）

★授業者氏名：（ ）

★授業教科・単元名：（ ）

★授業対象学級：（ ）

★本時の目標：

★授業評価表 ※評価は5段階で記入してください。

	評価項目	評価	気付き
はじめ	① 目標は適切であったか ※指導要領との関連、分かりやすさ、提示方法など		
	② 教材・題材は適切であったか ※目標との関連、難易度、情報量など		
	③ 児童生徒の興味・関心を高める工夫があったか ※児童生徒の認識や知識との関連など		
なか	④ 発問や指示、説明は適切であったか ※場面や児童生徒の状況に応じた使い分けなど		
	⑤ ICT機器や教具の活用は適切であったか ※目的や意図に応じた効果的な活用など		
	⑥ 学習形態・学習活動は適切であったか ※場面や児童生徒の状況に応じた使い分けなど		
	⑦ 児童生徒の様子を的確に見取り、臨機応変に働きかけが行われていたか ※児童生徒のつまずきの把握や問い直しなど		
おわり	⑧ 本時の学習内容を確認する場があったか ※本時の目標との対応、確認方法の適切さなど		
	⑨ 自分の学びを振り返る場があったか ※十分な時間の確保、次につながる助言など		
	⑩ 学習の様子が分かる板書だったか ※事前の計画、児童生徒の言葉、構造化など		

★その他、何か気付きや感想があれば…

（ ）



## 保護者や地域住民の方々による授業評価

**ここがポイント!!**

児童生徒にとって本当に分かりやすい授業をめざし、多様な意見を受け止めましょう。

児童生徒にとって分かりやすい授業とは、誰が見ても分かりやすい授業であるとも言えるでしょう。そこで、参観日や自由参観週間、ユニット型研修等の設定により、保護者や地域住民の方々に積極的に授業を公開し、評価していただくことも大変効果的です。

### 【保護者や地域住民の方々の授業参観シートの例】

※この参観シートは、本校教員の授業力向上のための参考とさせていただきます。授業を参観されて気付いたことや感じたことを、率直に記入してください。

平成（ ）年（ ）月（ ）日（ ）曜日（ ）校時

★授業者氏名：（ ）

★授業教科・単元名：（ ）

★授業対象学級：（ ）

#### ★チェック表

	チェック項目		当てはまる方に ○をつけてください
はじめ	①	休み時間と授業時間をきちんと切り替えていましたか	はい いいえ
	②	子どもたちが学習に興味・関心を高めるための工夫がありましたか	はい いいえ
なか	③	先生が説明していることや黒板に書いたことは分かりやすかったですか	はい いいえ
	④	先生は、子どもの様子をとらえ、子どもの反応に丁寧に対応していましたか	はい いいえ
	⑤	子どもたちが考えたり、意見を交換したり、発表したりする場面がありましたか	はい いいえ
おわり	⑥	授業で学んだことをまとめる場面がありましたか	はい いいえ
	⑦	授業と家庭学習をつなげるための工夫がありましたか	はい いいえ
子ども	⑧	子どもたちは進んで学習に取り組んでいましたか	はい いいえ
	⑨	子どもたちは授業の目標を達成していましたか	はい いいえ

★その他、何か気付いたことや感じたことがあったら、記入してください。箇条書きでかまいません。参観した授業と直接関係のないことでもかまいません。

.....

ありがとうございました。

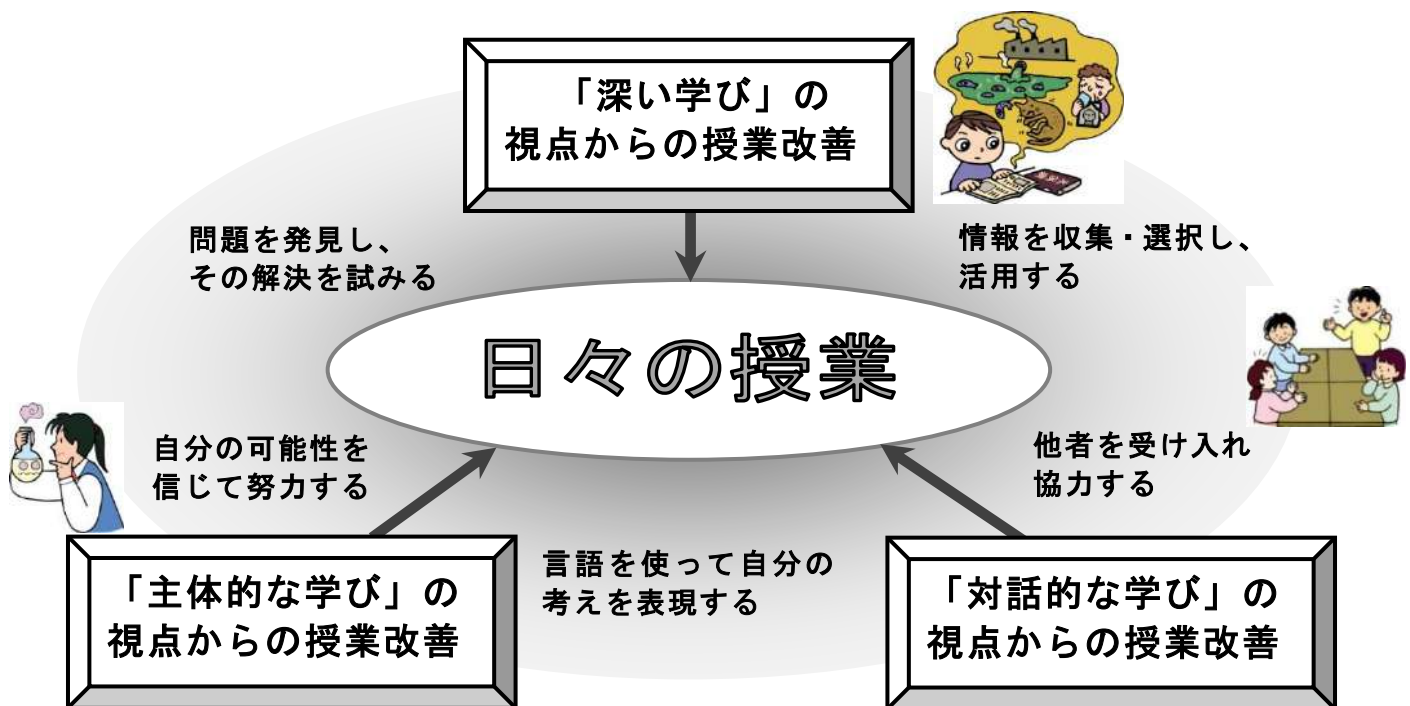
## (4) 授業を改善する

### A (改善する)

授業の評価によって明らかになった改善点をふまえ、よりよい授業にするための具体的な対策を考えます。

授業改善を進めるにあたっては、ここまで見てきたP（構想）→D（実践）→C（評価）の流れを通して明らかになった授業の問題点を、教員の立場から検討し改善していくのが基本です。

さらに、「児童生徒にとって、自分の成長につながる学びになっているか」ということも考えながら、授業の在り方を改めて見直してみましょう。これが、「**主体的・対話的で深い学びの実現**」すなわち**アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善**を意識した取組です。「主体的・対話的で深い学びの実現」をめざして授業改善を進めることにより、児童生徒は、情報を収集・選択し活用する力や、言語を使って自分の考えを表現する力といった、全ての学習の基盤となる資質・能力を、実際に使いながら身に付けていくことができます。



なお、「主体的・対話的で深い学びの実現」すなわちアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を意識した取組は、**特定の型を意図したものではありません**。また、三つの授業改善の視点は、**相互に関連しているものであり、一体的なもの**です。それぞれの視点に注目することの意味を考えながら、日々の授業改善を進めていきましょう

次のページに、文部科学省資料をもとに作成した図を掲載していますので、「主体的・対話的で深い学びの実現」をイメージする際の手掛かりにしてください。

## 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか

<例>

- ・学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しをもって粘り強く取り組みとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする など

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

## 【対話的な学び】

子ども同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか

<例>

- ・実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自分の考えを広げる
- ・あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・子ども同士の対話に加え、子どもと教員、子どもと地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る など

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・  
人間性等の涵養

生きて働く  
知識・技能の  
習得

未知の状況にも  
対応できる  
思考力・判断力・表現力等  
の育成

## 【深い学び】

各教科等で習得した知識や考え方を活用した「**見方・考え方**」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか

<例>

- ・事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合ったりすることを通じて集団としての考えを形成したりしていく
- ・個性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく など

## 4 授業改善を進めるための研修体制 ～学校全体で授業改善の雰囲気高めることが大切です～

### ✔️ いくつか当てはまりますか？チェックしてみましょう！

<input type="checkbox"/>	授業をすることが好きである。
<input type="checkbox"/>	「こんな授業をしてみたい」というイメージをもっている。
<input type="checkbox"/>	指導する児童生徒の学力状況・学習状況を把握している。
<input type="checkbox"/>	他の先生の授業を見る機会がたくさんある。
<input type="checkbox"/>	授業を見てもらう機会がたくさんある。
<input type="checkbox"/>	授業づくりについて相談できる先生がいる。
<input type="checkbox"/>	職員室で、授業の話題をよくしている。
<input type="checkbox"/>	育てたい児童生徒の具体的な姿を全校の先生と共有している。
<input type="checkbox"/>	授業での学習規律や学習ルールを全校で共有している。
<input type="checkbox"/>	授業での重点取組事項を全校で共有している。

授業づくり・授業改善にあたっては、それぞれの教員が行うことだけではなく、他の先生方と協働して行うこと、学校全体で行うことがあります。これらをバランスよく実施していく必要があります。

授業改善の雰囲気を、全校でつくっていくことが、児童生徒の学力向上につながります。



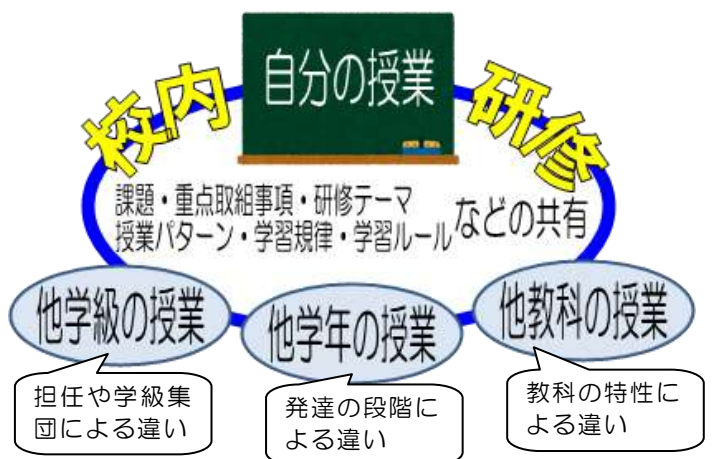
### 校内研修

**ここがポイント!!**

研修を通して共有したことを確実に実施し、学校の「チーム力」を高めていきましょう。

教科や学習内容、発達の段階に応じて、授業での指導方法は異なりますが、校内研修では、自校の児童生徒の実態をもとに、共通の視点をもって、それぞれの授業における指導方法を検討していきましょう。

学級、学年、教科の枠を越えて、学校全体で、授業を改善していこうとする体制をつくり、様々な機会を活用しながら研修を深めていくことが大切です。





## 校種間連携による研修

学習指導要領では、教科等での学習内容が、学年や領域ごとに、系統的・連続的に配列されています。

教員同士が、それぞれの学習内容や相互のつながりについて理解し、連携・協力して指導にあたることは、教育効果を高めることはもちろん、地域からも信頼される学校づくりにつながります。県教委では「小中連携カリキュラム」を作成し、その活用を推進しているところです。（詳しくは義務教育課HPにある指導資料「子どもの学びをつなぐ小中連携～小中連携カリキュラムのすすめ～」を参考にしてください。）

ここがポイント!!

児童生徒の9年間の学びを支えるために、系統性のある授業を構築しましょう。

【小中連携カリキュラムの一例】

小学校理科・中学校理科 単元系統配列一覧表 <生命>		※実施は連携つながる項目を、破線は階段的につながる項目を示しています。						
		第1期		第2期		第3期		
		小学校第3学年	小学校第4学年	小学校第5学年	小学校第6学年	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
生命	生命の構造と機能	植物と動物 ・植物の成長と細胞分裂 ・動物の成長と細胞分裂	人の体のつくりと運動 ・骨のつくり ・骨の働き ・骨の再生と成長 ・骨の病気	人の体のつくりと運動 ・骨のつくり ・骨の働き ・骨の再生と成長 ・骨の病気	植物の体のつくりと働き ・根の働き ・葉の働き ・花の働き	動物の体のつくりと働き ・骨の働き ・骨の再生と成長 ・骨の病気	動物の体のつくりと働き ・骨の働き ・骨の再生と成長 ・骨の病気	動物の体のつくりと働き ・骨の働き ・骨の再生と成長 ・骨の病気
	多様性と共通性	多様な生物 ・動物の多様性と系統 ・植物の多様性と系統	動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統	動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統	動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統	動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統	動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統	動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統 ・動物の多様性と系統
	生命の連続性	動物の発生、成長、結実 ・動物の発生 ・動物の成長 ・動物の結実	動物の発生 ・動物の発生 ・動物の発生	動物の発生 ・動物の発生 ・動物の発生	動物の発生 ・動物の発生 ・動物の発生	動物の発生 ・動物の発生 ・動物の発生	動物の発生 ・動物の発生 ・動物の発生	動物の発生 ・動物の発生 ・動物の発生
	環境との関係	身近な自然の観察 ・身近な自然の観察 ・身近な自然の観察	動物の観察 ・動物の観察 ・動物の観察	動物の観察 ・動物の観察 ・動物の観察	動物の観察 ・動物の観察 ・動物の観察	動物の観察 ・動物の観察 ・動物の観察	動物の観察 ・動物の観察 ・動物の観察	動物の観察 ・動物の観察 ・動物の観察
生涯の学び	身のまわりの生物 ・身のまわりの生物 ・身のまわりの生物	身のまわりの生物 ・身のまわりの生物 ・身のまわりの生物	身のまわりの生物 ・身のまわりの生物 ・身のまわりの生物	身のまわりの生物 ・身のまわりの生物 ・身のまわりの生物	身のまわりの生物 ・身のまわりの生物 ・身のまわりの生物	身のまわりの生物 ・身のまわりの生物 ・身のまわりの生物	身のまわりの生物 ・身のまわりの生物 ・身のまわりの生物	身のまわりの生物 ・身のまわりの生物 ・身のまわりの生物



## キャリアステージを意識した研修

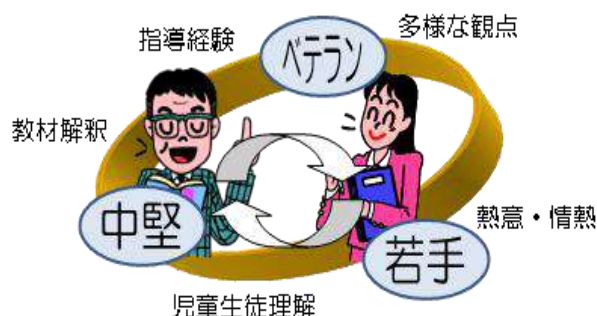
異なるキャリア、また、異なる教科等の教員を混在させた研修体制を確立し、日常的な授業改善を図っている学校も少なくありません。

若手教員は、ベテラン教員から多彩な指導や深い教材解釈の方法を学ぶことができます。またベテラン教員は、若手教員から異なる観点での指導方法や授業づくりに対する意欲などを再認識できます。そして、中堅教員は、学校の中で自分が果たす役割を意識しながら、自己の教師力向上に励む必要性を改めて実感することができます。

それぞれの良さや個性を生かすとともに、キャリアステージに求められる資質・能力を意識し、教員同士が支え合いながら、互いに授業力を高めていきましょう。

ここがポイント!!

それまで積み重ねたキャリアに応じて個々の授業力を高め、児童生徒によりよい授業を提供しましょう。



子どもたちの未来のために、教育のプロとして、  
全ての学校・全ての教員で授業を改善しましょう



# 本資料の活用について

本資料は、いわゆる四点セットの一つとして、平成25年7月に配布した「授業づくりと評価の手引き 基礎編」をもとに、**学習指導要領の改訂に伴い注目されている「主体的・対話的で深い学び」の実現、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を意識しながら、山口県教育庁義務教育課で見直しを行ったもの**です。

基本的な内容が中心ですが、今一度確認することで、日々の授業改善に結び付けていくことができます。また、本資料に書かれている内容について校内研修等で取り上げていくことで、教職員間で共通理解を図ることができ、全校体制での取組につなげることができます。さらに、各学校で進めている独自の取組について加筆していくことにより、本資料がさらに内容の充実したものになることが期待されます。

その他にも、工夫次第で、いろいろな使い方ができる資料になっています。ぜひ先生方の手元において、積極的に活用してください。



いわゆる四点セットとは、本資料「授業づくりと評価の手引き」と、「学習力向上の基礎」「板書型指導案」「通常の学級における特別支援教育の充実のために」を指しています。これらを手元において、常に研鑽に励みましょう！

四点セット以外にも、各種指導資料や、学力分析支援ツール、やまぐち学習支援プログラムなど、授業改善や補充学習の充実に活用することのできるものがたくさんあります。積極的に活用していきましょう。

